

女性人材向け研修

“私らしいリーダー像”を目指す！

～理想のキャリアと必要なスキルとは～

実施報告

【第2回女性人材向け研修 実施概要】

テーマ：自ら考え、自ら切り拓く「戦略眼」を磨く ～業務にも活かせるクリティカルシンキング～
開催日時：2024年9月9日(月) 13:30～16:30
実施方法：会場開催（オンデマンド配信実施） 会場：エディオンピースウイング広島4F ビジネスラウンジ(広島市中区基町15-2-1)
主催：広島県(受託事業者：株式会社東京リーガルマインド)
参加者数：64名
講師：ソーシャルスキル・プログラム合同会社 代表 吉田 真知子氏

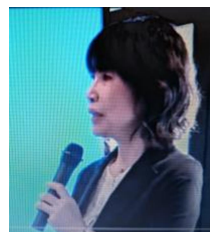
【プログラム】

■オープニング

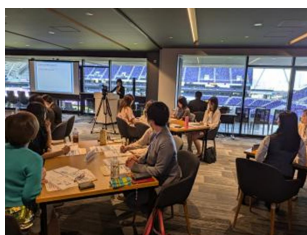


最初に吉田講師が、第1回の振り返りとして、グループ横断ディスカッション(ワールドカフェ)で挙げた「自分の限界を更新していきたい!」「周りとの関係を諦めない!」「できないこと、苦手なことをチームの中で補う!」等の印象的だった参加者の声を紹介。加えて「人生を生きる、仕事をするに対して、どのようなまなざしや考えを展開していくかで、自分自身は大いに変わっていく」ことを改めて強調した。

■1.クリティカルシンキングに必要な考え方 ワーク&ディスカッション (13:30~14:00)



4~5人に分かれた15グループでスタート。まずは恒例となった各テーブルで一人1分間の自己紹介、名刺交換をして自己開示。2回目ということもあり、すでに会場は和やかな雰囲気包まれていた。吉田講師より、クリティカルシンキングとは「批判的思考」のことを指し、ものごとの本質を見極め、客観的な視点で分析し、問題や課題を解決するための思考法であると説明。クリティカルシンキングの実践のスタート地点として「相互認識のズレ」に



気づくことが重要であり、この相互認識のズレがあることを前提として、そのズレを少しずつ修正しながら思考することが大切であると強調した。加えて、クリティカルシンキングを実践するにあたって意識すべきことは、「目的を意識する」「当たり前や前提を疑ってみる」「自他の思考のクセがあることを前提に考える」「問い続ける」の4点であると説明した。また、クリティカルシンキングを実践する上での重要な要素として「前提を疑い正しくものごとを見る」「あるべき姿と現状の

ギャップから課題を設定する」「仮説と検証を繰り返す」という3要素があり、それらの要素を軸に講義、ワーク&ディスカッションが展開された。

■2.前提を疑い正しくものごとを見るスキルを身に付ける ワーク&ディスカッション (14:00~14:30)

1つ目の要素である「前提を疑い、正しくものごとを見る」ために必要な「思考法」として、様々な方向からものごとを見る、「多面的な思考」が挙げられた。その多面的な思考を持つためのコツは「ものごとを見る角度（視点）」「ものごとを見る範囲・枠組み（視野）」「ものごとを見る目線の高さ（視座）」の3点を広げること（＝「まなざしの変換」）であると説明した。そこで、「まなざしの変換ではなく、まなざしの固定化が起こってしまうのはなぜか」というテーマについて、ワーク&ディスカッションを行った。2つのグループから「立場・プライド、見ないふり、経験の偏重、他の視点の欠落等が理由ではないか」「SNSの多くの情報に惑わされていることも理由として考えられる。また、まなざしの固定化は立場が上がるほど発生しやすいのではないか」などの意見が挙げられた。実際に、このような「アンコンシャス・バイアス」「自己の中心化」「心理的柔軟性の欠如」などがまなざしの変換を阻害し、結果として多面的思考をそぐことにつながるとのこと。では、「前提を疑い、正しくものごとを見る」とはどういうことか。それは、「前提が本当に正しいのかを分析すること」であり、効果的に分析するためには「前提に対して疑いの目を持つ」「経験則や固定観念をあてにしない」「衆知を集める」ことが重要であると説明した。加えて、前提を構造的に分析する際、頭の中だけで考えず、ロジックツリーなどに書き出しながら整理することを強く薦めた。

■3.あるべき姿と現状のギャップから課題を設定する ワーク&ディスカッション (14:30~15:00)

1回目のグループ替えを実施し、5分間の名刺交換と自己紹介による自己開示。2つ目の要素である「あるべき姿と現状のギャップから課題を設定する」ために必要な、「クリティカルシンキングの4つのステップ：①目的とゴールを明確にする→②現状を分析する→③課題を見つける→④解決のためのアクションを考える」について紹介した。吉田講師は4つのステップについて説明する際、「あるべき姿と現状のギャップ」とは「モチベーション」と強調した。また、現状を把握し分析することは難しく、そのためには、「自分に合った現状分析フレーム」を持っていくとよいとアドバイス。現状分析フレームとして、SWOT分析、クロスSWOT分析、3C分析（会社単位）、4C分析、PEST分析、7Sを紹介した。ただし、フレームをたくさん使うこと＝クリティカルシンキングと考えて、多くのフレームを使うことを目的とせず、自分に合ったフレームで現状や目的を考え、そのギャップを精査しながら自分のスキルなどの開発に進んでいくことが重要であると呼びかけた。参加者からの質問もあり理解を深めていった。

■4.仮説と検証をくりかえし、未来を創っていく ワーク&ディスカッション (15:10~15:50)

最後の要素である「仮説と検証を繰り返す」ことについて、まず吉田講師から、「仮説とは見通しを立てることである」と説明。また、仮説を立てるメリットとして、必要なデータや項目を絞って調査をすることができ、問題・課題に対して効率的にアプローチをかけられる点を挙げた。また、事例紹介を交えながら、「仮説とは1回でうまく進むものではない。たとえ仮説が違っていても、新たな仮説をたててみるのが重要である」と強調した。その後、4つのステップ、仮説と検証について、ワーク&ディスカッションを行った。

■グループ間横断ディスカッション（ワールドカフェ）（15:55~16:25）

仮説思考のトライとして、吉田講師から事例の紹介があり、それを参考に参加者それぞれがA3用紙に、「私による私のための仮説検証」として目的とゴールを明



記し、そのための仮説・プランを立てた。

第1ラウンドではグループ内で発表が行われた。また、第2ラウンドでは各グループの1名(ホスト)を残して2回目のグループ替えを実施。移動したメンバーは移動先で話し合った内容や得た情報をインプットした。そして第3ラウンドでは元のグループに戻り、他のグループでの情報をもとにディスカッションを行った。各グループとも話が尽きず盛り上がり、自然と拍手が沸き起こった。

最後に、吉田講師から「参加者の皆さんは共感力が高く、興味や共感力がなければ、このような展開の盛り上がりもなかったでしょう。仮説思考を広げるコツは、人に会っているような局面を自分に見出すことです。ぜひ、合同交流会でもクリティカルシンキングを活かしてください」との感想・アドバイスがあった。



【参加者の声】※アンケートより一部抜粋

- クリティカルシンキングについて学ぶことが初めてだったので、大変勉強になりました。
- 仮説をたてて検証しながら仕事を進めていくことで、業務の効率化に繋がるので、いいと思いました。
- 自分に当てはめて考えるのが難しかったが、ディスカッションするうちに分かってきた。
- 実際に使える4つのステップがとても良かったです。
- 仕事ですぐに活かすことのできる考え方を学ぶことができました。